着だおれ京都人に送る「ササイな情報」③

―野田達哉

パリからの帰りの機内で、隣の席に煙草を吸いに来た南フランスの自称ドクターは、私が京都に住んでいると聞いて、「KYOTO/MY dream…」と、自分が和に対していかに憧憬があるかを、とうとうと語り始めた。彼が来るまで、この席に座っていたミラノの医者の息子とは、サッカーの話と、Fドライバーのイワン・カペリがいかに優秀であるかという話題で盛り上がっていたのに、急に現実的な世界に引き戻されて、日本的経営システムにまで、話が及んだところで、狸寝入りを決め込んだ。

「頭の痛くなる話題は止めましょう」今回のパリコレのトレンドはそんな感じ。世界的な不況は深刻で、大国が抱えている問題を数え上げればきりがない。日本の政治不信なんて可愛いもので、ロンドンの失業問題、イタリアの政治スキャンダル、フランスの移民問題など、EC統合とは言うものの、ヨーロッパの各国はそれぞれの国が出口のない迷路に迷い込んでいる状態。フランスの知り合いとファッションの話をしていても、話は知らず知らず政治の方へ流れ、どちらからともなく「ポリティックな話は止めよう。」と言い出すこともしばしば。

ファッションは夢物語的な世界だから、せめてその話題の時は、暗い話題は止めようという暗黙の了解。70年代ルック、フラワームーブメント再燃の次は、「デイク・イット・イージー」だなんて、モノの考え方も、フィルムを巻き戻して見ているようで、あの頃の時代をわずかながら体験しているものにとっては、変な気分です。

というわけで、今回は軽い気分で楽しもうと思っていたところに、届いたのが「XULYBèt」(日本ではジュルリー・ベー、ズーリー・ベットなどという表記でファッション誌に紹介されています)のコレクション招待状。アフリカのマリ出身の本名コヤテ・ラミン・ベドウインというこの黒人デザイナー、昨年秋にチュイルリーの広場で初めて小さなショーを開いたのですが、これがプレスに大きく取り上げられ、今回パリコレ真っ最中に、サマリテンデパートのーフロアを使って、フルコレクションを披露。

元々、彼はタチというスーパー(あのアライアがショッピングバッグのデザインを担当していたことでも、数年前話題を呼びました)の、デザインを担当していたこともあって、いわゆるクチュール系のデザイナーとブランドのスタンスが全く違い、服の値段も一番高いもので100フラン(約2万2000円)。古着のリメイクあり、パンストを分解してアウトウェアにしたり、ニットもアウトステッチのものがほとんど。面白いのは、その服作りの思想が、ヒップポップの音作りの手法と同じだという点。まさに彼が名付けた「アンキンファッション」のオンパレード。これが、DJのプレイに乗って次々に登場する。最高。

ショーに使われている曲もいきなりジミヘンでスタートして、ビート、ダンスホール、フィナーレはアレステッド・デベロプメントのマルコムXのサントラ「レヴォリューション」。客の送り出しは再びジミヘンのマシンガン。黒人音楽で育ったものには、目も眩むメッセージの嵐。来ている客も、バルベス辺りの黒人が70年代のスライの衣裳そのままというワンダーランド。

写真で紹介できないのが残念なので、せめて気分だけでも、パリのFM局のラジオNOVAとラジオトロピカのエアチェックテープを編集し直し、このショーで使われた曲を中心にミックスしたテープを3名の方にプレゼントします。欲しい方は本誌編集部まで葉書で。

プロフィール 京都生まれ。京都在住。80年頃はノーコメンツ、ノンカテリアンズのベースとして、90年頃までPファンクマナーのドファンクバンド・スマイリービーツのバンマスでミュージシャン活動。並行して92年よりNYのファッション専門紙の日本版の記者として勤務。音楽活動はメンバーの激来などで休止中のため、ファッションジャーナリストが本業。ボール・スミスのロンドンの店でスチャダラパーのBGMが流れていたのも彼の仕業。最近はプロレスと格闘技のビデオばかり見ている。と不穏。

マンボカーパラダイス 今度の日曜日も大渋滞

―パラダイス山元

楽しい連休は如何お過ごしになられましたか?恋人とドライブですか。あーそれはようございました。ところで最近、楽しいドライブに無くてはならないのが、大渋滞です。10連奏CDオートチェンジャーに、彼女の手づくり弁当も、もちろんあるに越したことは無いのですが、でも何はともあれ大渋滞です。

まだ知り合って間もない頃のカップルにとって、これほど偶然に、しかも必然的に密室に閉じ込められる機会は、そうはないはずです。最初のデートから、いきなり街道沿いのホテルのワカメカーテンに突進する最近の無謀な若者には、ちょっと話がわかりづらいと思いますが、折角の休日、二人にとっては貴重な時間です。今日別れたら来週まで、また会えないというのが、健全な若人と言えましょう。そんな二人の為には、やっぱり大渋滞は欠かせません。できることなら、それは午前中の早いうちから、巻き込まれるのが理想的です。この際ですから、車に乗ってからラジオの交通情報なんて聞いてしまっては、ムード台無しですから、あらかじめ家を出る前に道路交通情報センターのテレホンサービスでこれから大渋滞になりそうな道をチェックすることくらいは心掛けて欲しいものです。そうして選び抜いたコースで突如として前方で起こる壮絶なクラッシュ。そんなときこそ神様に感謝したいものです。遥か後方から聞こえてくる救急車のサイレンが、「ドップラー効果」になるまでに最低15分、JAFのレッカー車が来るまで30分、警察の実況見聞が全て終わって現場を通過するまで、悠に1時間は掛かると言えましょう。二人の身の上に災難が降りかからなかったことを、共に手を取り合って喜びあいましょう。予想外の事故に遭遇できなくても、諦めてはいけません。道路の脇に、普段見落としがちな工事予告の立て看板。この際迷わず突進しましょう。立ち往生間違いなしです。こうなったらお互い将来を誓いあってもよし、家族計画の具体的な数まで話が弾んでしまってもあとで決して後悔しないでしょう。

恋愛初心者の方に有効なことは、もうこれでお分かりでしょう。大渋滞は、倦怠期を迎えたお二人にも特にお勧めいたします。隣に並んだクルマからの視線は、いつも二人の愛のかたちを更に熱くすることでしょう。より刺激を求めるカップルには、高速道路のサービスエリアで売っている携帯トイレの使用をお勧めしましょう。オープンや、カブリオレにお乗りの方は特権だと思って差し支えありません。たまに並ぶ観光バスからの熱い祝福の嵐が、二人の愛を更に確かなものへと育て上げることでしょう。カーテンに、スモークフィルムで武装したメルセデスベンツにお乗りのその筋の方は、浮世のことは忘れてどうぞたっぷりと、こころゆくまでお楽しみ下さい。ホワイトマイカのリンカーンコンチネンタルリムジン・特注ストレッチにお乗りの京都の富豪の方は、今度のお盆の際の大渋滞に、ぜひ東京へいらしてみてください。このクルマを所有することの喜びを、あらためて感じることでしょう。

てなわけで、ベンツにBMWだ、4WDだといって、乗っているクルマの価値観がどーのこーの言われる時代はバブルと共に終わりました。これからは、クルマの価値ある乗りかたが問われる時代です。石油も、どうやら生きているうちは大丈夫そうです。楽しいクルマで、今度の日曜日も大渋滞しに行こう。

プロフィール 1965年生まれ。元東京パノラママンボボーイズのコンガ奏者。日本大学芸術学部美術学科工業デザイン卒業。富士重工業デザインセンターに入社。レガシィツーリングワゴン、アルシオーネSVXのデザイン開発に携わる。1991年に退社。マンボの道一筋となる。現在MAMBO BOYSの他、HIT THE BONGOでマンボの新境地を開拓中。クルマの評論、サブカルチャーの考証、そして忘れてならないのが、マン盆栽とよばれている盆栽の栽培と、東京パノラママンボボーイズ解散後も、ますます盛んなマンボ野郎である。